

読書会用テキスト（2021年4月～購入テキスト）

2021.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
	推し、燃ゆ	宇佐見 りん	河出書房新社〈125p〉
1	ままならない人生を引きずり、祈るようにアイドル上野真幸を推すあかり。ある日、真幸がファンを殴って炎上し…。デビュー作「かか」が三島賞候補になった21歳の第2作。(TRC-MARCより)【第164回芥川賞受賞作】		
	少年動物誌	河合 雅雄	福音館書店〈317p〉
2	冬枯れの田んぼから、あらんかぎりの力で飛び立とうとするタヒバリを、ひたすらねらいつづける「ぼく」。動物の息づかいが、人間の生活のすぐそばで感じられたふるさと丹波篠山を舞台に、少年と動物たちの生き生きとした交流を描く。		
	52ヘルツのクジラたち	町田 そのこ	中央公論新社〈260p〉
3	自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会う時、新たな魂の物語が生まれる。(TRC-MARCより)【2021年本屋大賞受賞作】		
	アンソーシャルディスタンス	金原 ひとみ	新潮社〈284p〉
4	コロナ禍の世界を逃れ心中の旅に出る若い男女を描く表題作をはじめ、ウイルスを恐れるあまり孤独を深め暴走する「テクノブレイク」など、生きる苦しみにも彩られた作品全5編を収録。『新潮』掲載を書籍化。(TRC-MARCより)		
	エンド・オブ・ライフ	佐々 涼子	集英社インターナショナル〈315p〉
5	多くの患者を看取ってきた看護師の友人が癌になった。「看取りのプロ」の死への向き合い方は、意外なもので…。最期の日々を共に過ごすことで見えて来た「命の閉じ方」とは。在宅での終末医療の現場を描くノンフィクション。(TRC-MARCより)【2020年ノンフィクション本大賞受賞作】		
	海をあげる	上間 陽子	筑摩書房〈251p〉
6	おびやかされる沖縄での美しく優しい生活。幼い娘を抱え、理不尽な暴力に直面してなお、その目には光が…。自らの声を聞き取った、著者初のエッセイ集。『webちくま』『新潮』掲載に加筆修正し、書きおろしを加え単行本化。(TRC-MARCより)【2021年ノンフィクション本大賞受賞作】		
	わたしの全てのわたしたち	サラ・クロッサン	ハーバーコリンズ・ジャパン〈403p〉
7	16歳のグレースとティッピーは、腰から下がつながった結合双生児。初めての学校生活、友情、恋、そして別れを詩のかたちで綴ったカーネギー賞等受賞作を、詩人・最果タヒと翻訳家・金原瑞人の共訳、祖父江慎の装幀で書籍化。(TRC-MARCより)		
	ブラック・チェンバー・ミュージック	阿部 和重	毎日新聞出版〈478p〉
8	1冊の映画雑誌を手に入れるという謎の「極秘任務」。40を前にキャリアを失った横口健二は、北朝鮮の女密使とともに、国家を揺るがす「禁断の事実」を追うことになり…。『毎日新聞』連載を加筆し単行本化。(TRC-MARCより)		
	「脳コワさん」支援ガイド	鈴木 大介	医学書院〈212p〉
9	高次脳機能障害、発達障害、認知症、うつ…。「脳コワさん」の生きる世界を当事者が解説。全援助職に望む支援姿勢、「聞き取りの壁」「受容の壁」といった4つの壁に援助職ができることなどを綴る。(TRC-MARCより)【第9回日本医学ジャーナリスト協会賞大賞受賞作】		

2022.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
10	鳥がぼくらは祈り、	島口 大樹	講談社〈143p〉
	中1のときに出会ったぼくら4人は、互いの過去を引き受け合った。高2の夏、ひとつの死と暴力団の抗争をきっかけに、ぼくらの日々が動き始める…。孤独な紐帯で結ばれた少年たちの揺れ動く〈今〉をとらえた青春小説。(TRC-MARCより)【第64回群像新入文学賞受賞作】		
11	タフィー	サラ・クロッサン	岩波書店〈412p〉
	父さんの暴力から逃れ、家を出たアリソン。古い家の納屋に身を隠すが、家主のマーラという老女に見つかってしまう。認知症のマーラは、彼女を昔の友人と間違えているようで…。ふたりで暮らした日々を描く、再生の詩物語。(TRC-MARCより)		
12	みんな水の中	横道 誠	医学書院〈265p〉
	ASD(自閉スペクトラム症)とADHD(注意欠如・多動症)を診断された大学教員が、「詩」「論文的」「小説風」の三種類の様式で、赤裸々に自身の体験世界を伝える。(TRC-MARCより)【第73回毎日出版文化賞(企画部門)受賞作】		
13	夜に星を放つ	窪 美澄	文藝春秋〈220p〉
	もう何も失いたくない。でもまた人と関わりたいと思った。「真夜中のアボカド」「銀紙色のアンタレス」など、心の揺らぎが輝きを放つ全5編を収録した短編集。『オール讀物』掲載を書籍化。(TRC-MARCより)【第167回直木賞受賞作】		
14	夕暮れに夜明けの歌を	奈倉 有里	イースト・プレス〈269p〉
	ロシアは今、どうなっているのか。高校卒業後、単身ロシアに渡り、ロシア国立ゴーリキー文学大学日本人初の卒業生となった著者が、テロ・貧富・宗教により分断が進み、状況が激変していくロシアのリアルを活写する。(TRC-MARCより)【第32回紫式部文学賞受賞作】		
15	戦地の図書館	モリー・グブティル・マニング	東京創元社〈336p〉
	第二次世界大戦終結までに、ナチス・ドイツは1億冊を超える書物をこの世から消し去り、対するアメリカは約1億4千万冊を戦場に送り続けた。アメリカ軍が実行した、史上最大の図書館作戦の全貌を描いたノンフィクション。(TRC-MARCより)		
16	おいしいごはんが食べられますように	高瀬 隼子	講談社〈152p〉
	職場でそこそこうまくやっている二谷、皆が守りたくなるような存在で料理上手な芦川、仕事ができてがんばり屋の押尾。心をざわつかせる、仕事+食べもの+恋愛小説。『群像』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第167回芥川賞受賞作】		
17	ミカンの味	チヨ ナムジュ	朝日新聞出版〈247p〉
	中学校の映画部で仲良くなった少女4人は、中学3年生になる直前、旅先の済州島で衝動的にある約束を交わし、タイムカプセルに入れて埋める。さまざまな感情と計算が隠されたこの約束をめぐり、次々と事件が起こるが…。		

2023.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
	汝、星のごとく	凧良 ゆう	講談社〈344p〉
18	瀬戸内の島に育った高校生の暁海と、自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた權。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長していき…。(TRC-MARCより)【2023年本屋大賞受賞作】		
	ぼくはただ、物語を書きたかった。	ラフィク・シャミ	西村書店〈229p〉
19	1971年、紙の宝物を抱えてぼくはドイツに降り立った。ミヒヤエル・エンデと並び称されるシリア生まれの作家、ラフィク・シャミの自伝的エッセイ集。亡命の50年と作家人生を初めて語る。(TRC-MARCより)		
	冬牧場 カザフ族遊牧民と旅をして	李 娟	アストラハウス〈349p〉
20	そこは、世界で一番海から遠い場所。鲁迅文学賞を受賞した李娟が、新疆ウイグル地区アルタイ地方にある冬の牧場で遊牧をしている、カザフ族との約3カ月にわたる心温まる交流を綴った紀行エッセイ。(TRC-MARCより)		
	ハンチバック	市川 沙央	文藝春秋〈93p〉
21	重度障害者の井沢釈華は、10畳の自室からあらゆる言葉を送り出す。釈華の背骨は、右肺を押し潰すかたちで極度に湾曲し、生きれば生きるほど、身体はいびつに壊れていき…。(TRC-MARCより)【第169回芥川賞受賞作】		
	くもをさがす	西 加奈子	河出書房新社〈252p〉
22	カナダで、がんになった。2021年コロナ禍の最中、滞在先のカナダで浸潤性乳管がんを宣告された著者が、乳がん発覚から寛解までの約8ヶ月間を克明に描く。祈りと決意に満ちた初のノンフィクション。(TRC-MARCより)【書店員が選ぶノンフィクション大賞オールタイムベスト2023受賞作】		
	黄色い家 SISTERS IN YELLOW	川上 未映子	中央公論新社〈601p〉
23	惣菜店に勤める花は、ニュース記事で黄美子が若い女性の監禁・傷害の罪に問われているのを見つけた。20年前花は、黄美子と少女たち2人と疑似家族のように暮らしていて…。(TRC-MARCより)【第75回読売文学賞(小説賞)受賞作】		
	木挽町のあだ討ち	永井 紗耶子	新潮社〈267p〉
24	雪の降る夜、芝居小屋のすぐそばで、美しい若衆によるみごとな仇討ちが成し遂げられた。2年後、ある若侍が大事件の顛末を聞きたいと木挽町を訪れる。芝居者たちの話から炙り出される真相は…。(TRC-MARCより)【第169回直木賞・第36回山本周五郎賞受賞作】		

2024.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
25	成瀬は天下を取りにいく	宮島 未奈	新潮社〈201p〉
	中2の夏休みの始まりに幼馴染の成瀬がまた変なことを言い出した。コロナ禍、閉店を抑える西武大津店に毎日通い、中継に映るという。さらにはM-1に挑み、実験のため坊主頭に…。『小説新潮』掲載に書き下ろしを加え書籍化。(TRC-MARCより)【2024年本屋大賞受賞作】		
26	ツミデミック	一穂 ミチ	光文社〈270p〉
	大学を中退し、夜の街で客引きのバイトをしている優斗。ある日、中学時代に死んだはずの同級生の名を名乗る女が現れ…。『違う羽の鳥』『憐光』など、全6編を収録。鮮烈なる“犯罪”小説集。『小説宝石』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第171回直木賞受賞作】		
断 27	なぜ働いていると本が読めなくなるのか	三宅 香帆	集英社〈285p〉
	「仕事と趣味が両立できない」という苦しみは、いかにして生まれたのか。労働と読書の歴史をひもとき、日本人の「仕事と読書」のあり方の変遷を辿り、日本の労働の問題点を明らかにする。(TRC-MARCより)【書店員が選ぶノンフィクション大賞2024受賞作】		
断 28	藍を継ぐ海	伊与原 新	新潮社〈268p〉
	ウミガメの卵を孵化させ、ひとりで育てようとする中学生。奈良の山奥でニホンオオカミに出会うWebデザイナー…。科学だけが気づかせてくれる大切な未来を描く、5つの物語。『小説新潮』『週刊新潮』掲載を加筆・修正。(TRC-MARCより)【第172回直木賞受賞作】		
断 29	デートピア	安堂 ホセ	河出書房新社〈153p〉
	舞台は南太平洋の楽園。ひとりの女を巡る、世界各国10人の男たちの争奪戦。恋愛リアリティショー「DUTOPIA」の視聴者たちは、やがて「自分だけのDUTOPIA」を編集しはじめ…。『文藝』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第172回芥川賞受賞作】		
断 30	ゲーテはすべてを言った	鈴木 結生	朝日新聞出版〈188p〉
	高名なゲーテ学者・博覧強記はある日、彼の知らないゲーテの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求めて膨大な原典を読み漁り、長年の研究生活の記憶を辿るが…。『小説トリッパー』掲載を書籍化。(TRC-MARCより)【第172回芥川賞受賞作】		